

子ども理解を探る保育・教職実践演習

－「にこにこタイム」の実践を通して－

A seminar for school teaching practice to understand children:

A practice of “Nico Nico Time”

久米 裕紀子，山口 照代，橋本 香代子

大西 有紀，伊藤 菜穂美，遠藤 晶

KUME Yukiko, YAMAGUCHI Teruyo, HASHIMOTO Kayoko

ONISHI Yuki, ITO Naomi, ENDO Aki

武庫川女子大学 学校教育センター年報

第3号 2018年

【実践報告】

子ども理解を探る保育・教職実践演習
－「にこにこタイム」の実践を通して－

A seminar for school teaching practice to understand children:
A practice of “Nico Nico Time”

久米裕紀子* 山口照代** 橋本香代子**
大西有紀*** 伊藤菜穂美*** 遠藤晶****

KUME, Yukiko* YAMAGUCHI, Teruyo** HASHIMOTO, Kayoko**
ONISHI, Yuki*** ITO, Naomi*** ENDO, Aki****

キーワード：保育・教職実践演習 子ども理解 学びの共有

1 はじめに

保育者をめざして、学んでいる学生たちが教育実習で更にその気持ちを強く感じていくことはうれしいことでもある。学生たちは、教育実習から、幼児理解や保育者の援助の大切さを感じている。来春からそれぞれが保育現場で働くという4年生の後期の授業は、とても貴重な時間だと思っている。中には、学生生活が終わることへの不安を抱えている学生も多い。だからこそこの時期に、保育者になることを実感し、期待感をもたせるような授業を展開していかなければならないと考えた。保育現場は、一人一人の保育者の資質が問われる。保育者集団がチームとなって子どもたちの成長を支えていくという心積もりを、学生にもしっかりと伝えていきたい。

大学4年次後期の「保育・教職実践演習」の授業では、より具体的に実践を積んでいくことを考え、できるだけ全員に子どもと関わる経験を通して、協働、共感、共有し合う授業にしていく必要性を感じている。

- ◎幼稚園の子どもたちと触れ合い、幼児理解につなげ、保育の質の向上を目指していく。
- ◎グループで保育を考え、互いの保育を体験し、考察し、学びを共有していく。
- ◎4歳児・5歳児を対象に部分保育をし、計画した保育展開を実践することで、気づき、学びを深めていく。
- ◎それぞれに役割を受け持ち、責任をもつこと、考えて動くことで、チーム力や協働していく大切さを感じる。

以上のことを踏まえて、平成28年度の「にこにこタイム」の実践を通しての子どもの理解を探る「保育・教職実践演習」の授業の取り組みについて詳細を述べる。

2 保育・教職実践演習とは

(1) 授業設定の背景

「保育・教職実践演習」は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するもの

* 教育学科講師 ** 元 教育学科非常勤講師 *** 教育学科非常勤講師 **** 教育学科教授

である。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される科目である。

本学では、平成25年度より教職科目必修2単位の科目として、大学教育学科4年次後期に「保育・教職実践演習(幼)」が設定されている。幼稚園教諭一種免許状を基礎免許とする者及び保育士課程履修者は原則全員履修することになっている。平成28年度開講の「保育・教職実践演習(幼)」を受講するためには、①「教育実習Ⅰ(幼)」, ②「保育実習Ⅰ(保育所)」・「保育実習Ⅰ(施設)」のいずれかを履修していることが要件として示された。

(2) 科目の目的・到達目標

「保育・教職実践演習(幼)」の科目目的は、保育・幼児教育の担い手としての生活をより円滑にスタートできるよう、保育者になる上で必要な資質能力についての自己の課題を自覚し、不足している知識や技能等を必要に応じて補い、その定着を図ることである。また、到達目標は、次の通りである。

- ①保育者として、使命感・責任感・教育保育的愛情等を有している。
- ②社会性や対人関係能力を有している。
- ③子どもを理解し、学級経営等を行うことができる。
- ④保育内容等を豊かに開発し、これを保育実践に計画的に生かしつつ指導することができる。

(3) 授業形態

幼稚園免許状を基礎免許とする3クラス(D組43名, E組50名, F組49名, 計142名)が受講し、6名の教員で担当した。授業方法は、後期火曜日1~2限連続開講、演習2コマ連続で15回(30コマ)実施した。

(4) 保育・教職実践演習の授業計画

授業内容は、保育者として身につけておくべき内容として、以下のように設定した。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児理解や学級経営等に関する事項、④保育内容の指導力に関する事項、⑤保育実践の課題に関する事項、という5つの観点から、演習、討論、実技、観察などを通じて学ぶものとし、平成28年度は(図1)に示した内容で15回の授業を実施した。

2回目から6回目の授業で<使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項><社会性や対人関係能力に関する事項><幼児理解や学級経営等に関する事項>について、クラスに分かれて教員からの講義、ロールプレイ、グループ討議などの演習を実施した。後半の8回目から14回目の授業では、<保育内容の指導力に関する事項><幼児教育に携わる者としての職業観・責任感に関する事項>については、保育内容の「音楽」「身体表現」「言葉」に関わる模擬保育を実施し、14回目の授業では附属幼稚園の4歳児・5歳児を招き、「にこにこタイム」を開催した。15回目は、「にこにこタイム」と、保育・教職実践演習の全体の総括を行った。後半の授業<保育内容の指導力に関する事項><幼児教育に携わる者としての職業観・責任感に関する事項>を学ぶにあたり、7回目の授業では、

- ・模擬保育と、「にこにこタイム」の企画運営については連動させていく
- ・模擬保育をした後、受講クラスの投票で子どもの前で実践するグループが選出される
- ・選出されたグループの学生は、対象クラスの子どもの経験等を考慮して指導案を再考し準備をする
- ・当日の保育担当以外の学生は、遊びのコーナー(開催場所は学校教育館1階アゴラを使用)、誘導などの世話係を担当し、順次準備をする

以上のことを伝え、模擬保育・実践を通してさまざまな状況への対応力が身に付け、新たな人間関

係を構築するために、D・E・Fクラスを解体して花組・星組・月組として3つの組に再編成した。

- (1) 本演習の目的と進め方
- <使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項>
- (2) 現職教諭と保育課題について：現職教員（管理職）が近年の職業上の課題等について講話，学生と懇談する
- <社会性や対人関係能力に関する事項>
- (3) 保育・教職に求められる社会性について
- (4) 子ども・保護者・職員との関係づくりについて
- <幼児理解や学級経営等に関する事項>
- (5) 子ども理解と保育実践について①
- (6) 子ども理解と保育実践について②
- <保育内容・保育実践の指導力に関する事項>
- (7) 設定保育実習に向けて(手遊び・読み聞かせ・表現活動・ゲーム・制作などの保育の計画と準備)
- (8) 保育内容(音楽)の指導力について①
- (9) 保育内容(音楽)の指導力について②
- (10) 保育内容(身体表現)の指導力について①
- (11) 保育内容(身体表現)の指導力について②
- (12) 保育内容(言葉)の指導力について①
- (13) 保育内容(言葉)の指導力について②
- (14) 保育の指導力を高める：「にこにこタイム」実施
- <幼児教育に携わる者としての職業観・責任感に関する事項>
- (15) 授業全体の総括：「にこにこタイム」（実践演習の総括）

図1 平成28年度シラバスに示した15回の授業内容

3 「にこにこタイム」とは

全ての学生に、子どもと触れ合う経験をさせたいという強い思いから、附属幼稚園の4歳児・5歳児を学校教育館（SE館）に招待し、「にこにこタイム」を開催することにした。

(1) 「にこにこタイム」について

- ① 附属幼稚園の4歳児（2クラス）・5歳児（2クラス）を招く。
- ② 遊びの広場（アゴラ）と保育（3室）を設置し、子どもたちの遊びにかかわっていく。
- ③ 「にこにこタイム」が子どもにとって、楽しい時間となるように計画していく。
- ④ 学生が自覚をもって、役割を確認し合い、必要なものを準備し、協力して進めていく。

(2) 「にこにこタイム」の流れ

(事前準備)

- ① グループ決め・・・142名（1グループ 2～3名 51グループ）
- ② 役割分担（遊びの広場：24グループ，保育：18グループ 世話係：9グループ）
- ③ 保育案作成：「言葉」6つ，「表現」6つ，「音楽」6つ
- ④ 遊びの広場の準備：6つ（サッカー，魚釣り，的当て，ボール投げ，ボウリング，輪投げ）
- ⑤ 世話係（幼稚園と事前打ち合わせ）：引率・誘導，危機管理など
- ⑥ 環境準備（プログラム・掲示物・お土産作りなど）：一人1枚カルタ制作
- ⑦ 当日の流れ

9：00 授業開始（出席・確認・準備）

- 9 : 2 0 世話係が迎えに行く (移動の時間 15 分)
 子ども到着 ※ SE 館 116 室へ (準備)
- 9 : 4 5 ~ 前半の遊び
- 1 0 : 2 5 ~ 後半の遊び
- 1 0 : 5 5 終了
- 1 1 : 1 0 世話係 : 幼稚園まで見送る その他全員 : 片付け

(模擬保育に向けて)

- ・グループの模擬保育の領域を抽選で、「表現」「言葉」「音楽」を決定する。
- ・グループごとに保育指導計画案を作成し、保育のねらい、内容、子どもの活動などを考え、必要なものを準備する。
- ・花組・星組・月組の 3 クラスに分かれ、「表現」「言葉」「音楽」の領域別の授業内に模擬保育をし、振り返りして学びを共有していく。
- ・花組・星組・月組の 3 クラスで、「表現」「言葉」「音楽」の領域別の模擬保育でよかったと思うグループを投票する。
- ・各領域、3 クラスで第 1 位、第 2 位に選ばれたグループ (18 グループ) が「にこにこタイム」で保育をする。
- ・3 位以下のグループは、他の役割を分担し、全グループが子どもたちとかかわっていくようにする。
- ・自分たちのグループの役割を理解し、全体な活動を把握できるよう話し合いをする。
- ・各グループで「にこにこタイム」の当日に向けて、打ち合わせ、準備をしていく。

(遊びの広場に向けて)

- ・アゴラのスペースも考えて、6 つの遊びを考える。
 ※ サッカー・魚釣り・的当て・ボール投げ・ボウリング・輪投げの 6 つの遊びが決まった。
- ・必要なものを制作したり、ルールを考えたりして、準備を進めていく。

⑧ 指導のため、事前に資料 (図 2) を学生に配布した。

平成 28 年度 大教 4 年 DEF 保育・教職実践演習 「にこにこタイム」について

- 【日 時】 平成 28 年 12 月 20 日 (火)
 9 : 0 0 から 12 : 15 (1・2 時限)
- 【場 所】 学校教育館 (SE 館) 1 F : アゴラ 3 F : 312・305・304
- 【趣 旨】 附属幼稚園の子どもを招待し「にこにこタイム」で楽しい時間を計画し、保育について学んだことを実践する
- 【内 容】 ○附属幼稚園の 4 歳児・5 歳児を対象に「にこにこタイム」を計画する
 ○4 歳・5 歳を対象に保育をし、子どもの発達や内面の理解を通して保育の質を向上させる
 ○「にこにこタイム」に向けて、内容、準備を進めながら、協力、連携することを学ぶ
- 【係 り】 ○保育の計画 (18 組の保育、6 組の遊びの広場)
 ○運営、進行について計画
 ○招待状 (ポスターなど)
 ○当日の引率:危機管理 (安全面)

※D 組 43 名・E 組 50 名・F 組 49 名 計 142 名が各 3 人グループになり、模擬保育を考えていく。表現・歌唱・言葉の授業の中でそれぞれ模擬保育を計画する。保育を見合い、学び合った中から「にこにこタイム」で実際に子どもたちの前で保育をする 18 のグループを決定する。

※全員が役割をもち、「にこにこタイム」に向けて、協力、連携をしていく。

図 2 にこにこタイムについて配布資料

⑨ 学生の活動内容

「にこにこタイム」の取り組みは、全学生が自分の役割を理解し、責任をもって行動できるように考え、当日の流れを以下の表1のようにまとめた。

表1 学生の役割分担表

9:00	・準備物確認 ※必要なものは、運びやすいようにまとめておく ・最終打ち合わせ (諸注意)		◎4歳児・5歳児対象 ◎幼稚園側に各グループ分けはお任せする(6グループ) ◎6グループがAグループ・Bグループの2つに分かれる ◎基本はA・Bグループで動く				
9:15~	・附属幼稚園から誘導する(世話係)						
時 間	流 れ	係	保 育			遊びの広場	
9:00~	準備		SE-304室	SE-305室	SE-312室	SE-アゴラ	
9:30	子どもが学校教育館に到着 ・荷物の置き場所(上着・水筒など) (雨天時:傘・レインコート)	誘導係が引率・安全点検をする	Aグループを誘導	Aグループを誘導	Aグループを誘導	Bグループ ④⑤⑥を誘導	
9:45	第1部 ・Aグループ①②③は、304室・305室・312室に行く(保育) ・Bグループ④⑤⑥を遊び広場へ誘導する	Aグループ世話係① 世話係② 世話係③ Bグループ世話係④ 世話係⑤ 世話係⑥	① 司会A 保育1 保育2 保育3 世話係A 記録A 観察A	② 司会A 保育7 保育8 保育9 世話係A 記録A 観察A	③ 司会A 保育13 保育14 保育15 世話係A 記録A 観察A	遊び 1B 遊び 2B 遊び 3B	遊び 4B 遊び 5B 遊び 6B
10:15	移動・休憩・トイレ	誘導係・Bグループは各保育室へ ・Aグループは遊びの広場へ					
10:25	第2部 ・Aグループ①②③は、遊び広場へ誘導する ・Bグループ④⑤⑥を304室・305室・312室に行く(保育)	AグループとBグループが交代	④ 司会B 保育4 保育5 保育6 世話係B 記録B 観察B	⑤ 司会B 保育10 保育11 保育12 世話係B 記録B 観察B	⑥ 司会B 保育16 保育17 保育18 世話係B 記録B 観察B	遊び 1A 遊び 2A 遊び 3A	遊び 4A 遊び 5A 遊び 6A
10:55							
11:10	終了 見送り※片付け		お土産・・・各クラスにカルタを渡す ・プログラム・安全標識・誘導旗など				

4 授業効果の検討

「にこにこタイム」の当日の様子を写真とビデオで記録した。写真・ビデオ撮影については園長およびクラス担任に保育観察の趣旨を説明し了承を得た上でを行い、本研究の写真掲載に関しても事前に了承を得た。また学生には事後のアンケートを実施し、その記録とアンケートをもとに授業効果について検討する。学生にも本研究の写真掲載の了承を得た。

(1) 「にこにこタイム」の当日の様子から

①遊びの広場（アゴラ）

アゴラの遊びの広場では、学生が子どもたちの遊びを一緒に楽しみながら、かかわっていった。どのような「言葉がけ」が子どもたちのやる気やうれしい気持ちになっていくかを、それぞれに実際に子どもとのかかわりの中で学ぶ機会となった。子どもたちを応援し、その場の雰囲気盛り上げながら、保育は「環境」が大切だということを実感していた。保育者の資質・能力として、子どもを受け止める「感性」が求められる。授業構成として、学生が実際に子どもとのかかわり、一緒に遊ぶ体験をしながら、子どもの思いに寄り添い、子どもの気持ちを読み取り、子ども理解の大切さ、遊びの空間やかかわる人の雰囲気など、環境の大切さを学ぶ機会となった（図3）。



① サッカー



② 魚釣り



③ 的当て



④ ボール投げ



⑤ ボウリング



⑥ 輪投げ

図3 遊びの広場の様子

②当日保育

投票で選出された1位と2位のグループが子どもたちの前で実際に保育する。学生たちは、3会場
で4歳児対象を前半、後半に5歳児対象に「おたのしみ会」と名付け、それぞれ各会場で3つつつ保
育をすることになった。学生たちが話し合い、「表現」「言葉」「音楽」3つの保育を組み合わせる順番
を決定した(図4・5)。当日まで、保育の反省や意見をもう一度振り返り、指導計画を練り直し、当
日に備えた。



図4 4歳児のおたのしみ会プログラム



図5 5歳児のおたのしみ会プログラム

はじめての「にこにこタイム」に子どもたちはとても嬉しそうであった。学生たちも、各会場
で子どもたちの様子に合わせて一緒に遊んでいた。下記の写真(図6)はその時の様子である。



図6 当日保育の様子

(2) 学生へのアンケートから

15回目の「保育・教職実践演習」の最終授業で、実施当日の様子を記録写真で振り返り、教員からのコメントを伝えたあと、「1. 保育・教職実践演習を通じて、学んだこと、気付いたことについて自由に述べなさい。」という課題に取り組んだ。そのうち、「にこにこタイム」について142名のうち103名の学生が記述していた。その中より抜粋したものを本演習の目的の事項(図1)に添って分類してまとめた。

- a 使命感や責任感, 教育的愛情等に関する事項
- b 社会性や対人関係能力に関する事項
- c 幼児理解や学級経営等に関する事項
- d 保育内容の指導力に関する事項
- e 幼児教育に携わる者としての職業観・責任感に関する事項

下記の表2をみると、e 幼児教育に携わる者としての職業観・責任感に関する事項について記述している学生が多かった。

表2 学生の記述内容を分類

a	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもから素直な反応が返ってくる度に、子どもの前に立って保育することは楽しいと感じた。 ○ にこにこタイムでは、前に幼稚園の教育実習に行ったときのことを思い出すことができ、あのときの気持ちに戻ることができました。 ○ にこにこタイムでは、模擬保育を行うチームになり、少しですが、自信が付きました。
b	<ul style="list-style-type: none"> ○ にこにこタイムでは、最初あまりイメージをもつことができず、疑問点も何か分からない状況だった。みんなで情報を共有して、段々と理解できたので、コミュニケーションをとる大切さを改めて学んだ。 ○ D・E・F組全員で協力し合って、作り上げたにこにこタイムを通して、この経験は、将来、先生になった時に生かすことができることばかりだと思いました。
e	<ul style="list-style-type: none"> ○ にこにこタイムでは、準備から大変でしたが、やっぱり、当日子どもたちを目の前にして、みんな笑顔で楽しめていたのが印象的でした。実際に子どもと関わることから得られる学びの大切さを感じました。 ○ 特に今回のにこにこタイムで実際に子どもと関わった中で、自分に足りないものが何か見つめ直すことができました。 ○ 改めて、子どもとかかわることの楽しさ、難しさ、責任感など、感じ、気付きました。
a d	<ul style="list-style-type: none"> ○ にこにこタイムで、やっぱり子どもは可愛いなと思いました。にこにこタイムでは、みんなが楽しそうでとても楽しかったです。
a e	<ul style="list-style-type: none"> ○ にこにこタイムに向けての準備や子どもたちとかかわりから、改めて子どもが好きだと実感した。大変なことがたくさんあるだろうけど、頑張ろうと思える場面が多くありました。 ○ 3年生の10月の幼稚園での実習を最後に、子どもとかかわる機会がありませんでした。にこにこタイムで、「先生」としての責任感を久しぶりに感じました。

c d	<ul style="list-style-type: none"> ○ にこにこタイムで、子どもたちと一緒に遊んでゲームをしたことで、どうすれば子どものもの興味・関心をもたせることができるのか、工夫や反省を含め、考え直すことができました。 ○ にこにこタイムで、子どもたちに直接かかわる機会を頂くことで、講義では学べないことがたくさん学べた。 ○ にこにこタイムで、子どもによって本当に反応が様々で、一人一人に合わせた対応が大切だと改めて気づきました。
d e	<ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業前ということもあり、本当の現場のことを考えたこれまでよりもよりリアルな保育に関する授業だったと思います。 ○ にこにこタイムなどの実践を通して、子どもに合わせた環境構成の大切さを感じた。 ○ にこにこタイムに向けて、みんなで準備をしたこと、そして、当日、実際に子どもたちと触れ合い、保育や遊びをできたことは本当に自分の身になったと思います。
c d e	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業全体を通して、“この保育だったら子どもはどう思うだろう?”“楽しめるかな?わかるかな?”などと、子どもを第一に考える機会が多く、それがにこにこタイムでも成果が出せたと思います。 ○ にこにこタイムで、実際に子どもたちのためにいろいろと遊びを考えたり、関わったりと、これまで学んできたことを実践できる機会がもてたのはとてもよかったと思います。
a b c d e	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最も多くの学びがあったのは模擬保育の実践とにこにこタイムです。 ○ にこにこタイムは、集大成のようで、模擬保育を考えるとところから、アゴラ遊び、その他の細かいところまで、子どものこと考えて作っていく時間になり、この4年間学んだからこそ、たくさん学びと反省ができたよい経験になりました。

(3) 学生のアンケートからの振り返り

「にこにこタイム」に関する上記 21 件の記述の内容をテキストマイニングツール (IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4) によって視覚化を試みた。

使用頻度が多かったキーワードの個数をカウントした。「にこにこ」「タイム」が 18, 「子ども」が 12, 「思う」が 7, 「感じる」「できる」が 5, 「考える」「改めて」「機会」「みんな」「実際」が 4, 「ある」「通す」「たくさん」「保育」「実践」「模擬保育」「大切さ」「遊び」が 3 件使用されていることが分かった。さらに、どのキーワードとどのキーワードが結びついているかという、キーワードの関連性をカテゴリ Web で表示した (図 7)。「タイム」と「子ども」と「機会」の関係が強く示された。このことから、学生はにこにこタイムの経験が子どものことを改めて考える機会となったと捉えていると読み取れる。

さらに「にこにこタイム」に関連のある言葉を見てみると、①「子ども」や「みんな」の「笑顔」を考えたこと、②「学んできたこと」を「子どもたちのため」に活かせる「機会」がもてたこと、③「アゴラ」での遊びを考えたこと、④「話」を「聞いて」「情報を得ること」が必要であった、という点が記述されていたことが考えられる。

「にこにこタイム」を通して、学生たちが、自分たちで考えて動き出すまでには、やはり少し時間がかかった。しかし、それは、「にこにこタイム」のイメージが共有できるまでに必要な時間であったと考える。イメージが互いに伝わり合うと、アイデアを出し合い、笑顔が増えていった。動き出すまでの過程を体験することで、より達成感や、子どもの気持ちに寄り添うことの大切さを学ぶことに

つながっていくように感じた。仲間と共有し合えるようになってくると、当日の動きは、楽しい時間・空間を作り出そうというエネルギーとなった。

「にこにこタイム」では、どの学生にも役割があり、それぞれが役割をもつことで、責任をもって考えて、行動する必要があった。そのことが、グループ（チーム）として動くこと、連携、共感力、協力することの楽しさや大切さにつながり、授業での集大成として学び直しの機会となった。

また、模擬保育、当日の保育を通して、保育をする側も見る側も、それぞれの立場で、保育、遊び、子ども理解などを授業で学んだことをより実感できたり、考えたりすることにつながっていった。子どもが楽しいと思うことはどんなことなのか、惹きこまれる話の仕方や夢中にさせる遊びの展開、保育力といわれる技術的な面を互いに見合うことで、保育を練り直したり、子どもの発達を振り返ったり、保育を作り上げていくことの責任ややりがいになり、大きな学びとなった。

12月下旬の時点で、142名中110名の学生が保育現場へ就職することが決定していた。保育現場で働くことに対して、不安もあり、期待もある。大教3年の実習以来、ボランティアなどで自分から子どもとかかわる経験をもつ学生もいたが、今回の演習で、全員が幼稚園の子どもの前に立って保育を進めたり、かかわったりする実体験ができた。子どもを理解することの大切さを実感し、自分たちが考えた保育で子どもが喜んでくれたという経験が、学生同士の互いの共感を生み、それぞれが保育現場に立つという確信につながり、頑張っていこうという自信になった有意義な時間であった。

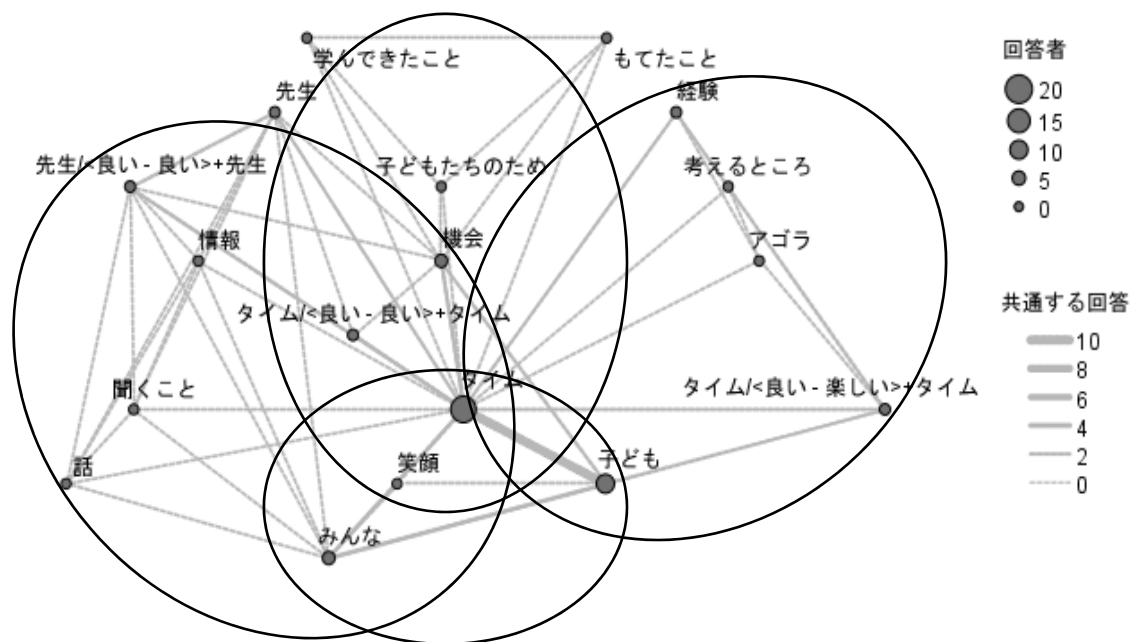


図7 にこにこタイムについての感想文21件の分析

6. 今後の課題

卒業後、春から現場に立って保育をする学生たちにとって、4年生の実習以降、保育を経験することはボランティアなど学生それぞれ個人に任されている。保育者を目指している学生にとっては、春から保育園や幼稚園で出会う子どもたちとの生活に対して、期待もあるが不安も大きい。それは、今

回のレポートからも読み取れることであった。だからこそ、学生にとって、子ども理解を通して自身や意欲につながるよう実践が積める授業の在り方を探っていくことが必要であった。「保育・教職実践演習」で、附属幼稚園の子どもたちを招いて「にこにこタイム」を行い、学生が保育について学びを共有していくことができたことは、保育現場に立つことへの責任感、やりがいを強くする機会となった。

来年度も「にこにこタイム」の取り組みを継続させ、子ども理解につながる子どもたちと触れ合う保育の実践ができる授業にしていきたい。また、今回は、学生のレポートを「保育・教職実践演習」に対する感想としたが、保育の実践の機会となった「にこにこタイム」のことに絞って詳しく調査をし、学生が求めているものやそこから学んだものの分析して授業に活かしていきたい。「にこにこタイム」が地域交流の場になるよう展開していきたいと考えている。

参考文献

- 1 中島紀子・横松友義『保育指導法の研究』ミネルヴァ書房，2007
- 2 秋田喜代美『教師のさまざまな役割』チャイルド本社，2006，p.69
- 3 国立教育政策研究所教育課程研究センター『幼児期から児童期への教育』ひかりのくに 2005，pp.40-47
- 4 文部科学省『指導と評価に生かす記録』 2013
- 5 文部科学省『幼児理解と評価』 2010
- 6 児童育成協会『保育者論』中央法規，2015，pp.171-173
- 7 小田豊・神長美津子『保育・教職実践演習』光生館，2013
- 8 小田豊・岡上直子・高梨珪子『保育者論』光生館，2012
- 9 小田豊・笠間浩幸・柏原栄子『保育者論』北大路書房，2010，pp.10-15 pp.122-123